

ものづくりの灯を永遠に

—近代化を支えた釜石・八幡で記念イベント

釜石市で盛大な記念式典を開催

日本近代製鉄発祥の地である釜石製鉄所では、日本の近代産業を支える多くの製鉄技術が生み出されてきた。1901年の官営八幡製鉄所の創業時には優れた技能と経験を持つ釜石の熟練作業員が派遣され、その立ち上げに大きな貢献を果たした。

そうしたものづくりの遺伝子を引き継ぎ、1961年、線材工場を新設し、1980年には線材製造に特化した釜石製鉄所は、レール製造などで培った知見をベースに世界最高品質の線材の製造技術を確立。タイヤ用スチールコード、明石海峡大橋のメインケーブルにも使用された橋梁用鋼線などさまざまな線材を製造している。

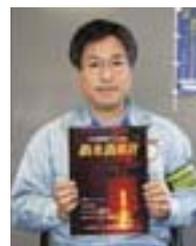
2007年12月1日、釜石市で、近代製鉄発祥150周年を祝う記念式典と記念モニュメントの除幕式が行われた。釜石市民会館で行われた記念式典では、達増拓也岩手県知事、赤津光一郎東北経済産業局長、新日鉄社長の三村明夫などが出席し、日本鉄鋼連盟主催の近代製鉄発祥150周年記念事業実行委員長を務める新日鉄副社長の関澤秀哲が大島高任のひ孫である大島夏江さんに感謝状を贈った。また、式典に続いて井上ひさし氏による記念講演などが行われた。

釜石駅前で行われた除幕式では、会場に、1989年の高炉休止後も釜石製鉄所が守り続けてきた「高炉の火」が釜石製

鉄所長の氏家義太郎の手で運ばれ、「ものづくりの灯を永遠に」の文字が刻まれた4トンの鉄鉱石がステンレス製のアーチで飾られた記念モニュメントに、野田武則釜石市長によって新たに灯がともされた。

日本鉄鋼連盟では、この行事への後援をはじめ、今後1年かけて全国各地で記念イベントを開催する。新日鉄釜石製鉄所では、こうしたイベントに先立ち、昨年からさまざまな記念事業を行ってきた。例えば、釜石市民を対象とした製鉄所見学会を5回行い、約500人が参加した。そのほか、中学校での「鉄の出前講座」や高校生による「たたら製鉄実験」なども行われた。

釜石製鉄所総務部長の前田明は次のように語る。「今後もこうした活動を通じ、地域に開かれた製鉄所でありたいと思います。当所では本事務所などいくつかの施設が近代化産業遺産群に指定されたので、今年開催予定の工場見学会では、これら施設も見学ルートに取り入れ、釜石地域の皆さんに見ていただくと思っています。また12月1日の記念式典では、大島高任のひ孫にあたる大島夏江さんとその御子息輝洋さんをはじめ、達増岩手県知事など大勢の方々にお越しいただき、共にお祝いすることができました。参加された地域の皆さんも大変感激された様子でした」



釜石製鉄所総務部長
前田 明



「高炉の火」の採火式



記念モニュメント除幕式



鉄の出前講座 (釜石東中学校 / 大平中学校)



「高炉の火」を見送る市民



大島高任のひ孫である大島夏江さんに感謝状を贈呈



製鉄所見学会

旧暦1857年(安政4年)の12月1日、南部藩士・大島高任が日本で初めて洋式高炉による出鉄に成功した。この日は日本鉄鋼連盟により「鉄の記念日」とされている。新日鉄をはじめとする日本の鉄鋼メーカーでは、150年の節目を迎えた昨年从今年にかけて、日本鉄鋼連盟が開催する記念行事を中心に、鉄に対する理解を深めるPR活動を全国各地で展開している。また、日本の産業近代化を支えてきた当社の釜石・八幡製鉄所の関連施設が、2007年11月、経済産業省より「近代化産業遺産群」に認定された。

当シリーズ第2回目は、2007年12月1日に釜石で行われた記念式典をはじめ、近代化産業遺産群に認定された当社の関連施設、北九州イノベーションギャラリーで行われた近代製鉄の歩みを振り返るイベントなどを紹介する。

釜石・八幡製鉄所の関連施設が「近代化産業遺産群」に認定

釜石製鉄所および八幡製鉄所の関連施設が経済産業省より、「近代化産業遺産群」に認定された。近代化産業遺産群は、日本の産業近代化に大きく貢献してきた幕末から戦前の建造物、機械、文書などの産業遺産を地域活性化に役立てることを目的に認定するもので、産業史や地域史を軸とした33のストーリーとそのストーリーを構成する575の個別遺産から構成される。

新日鉄釜石・八幡製鉄所の関連施設は、「鉄鋼の国産化に向けた近代製鉄業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群」のストーリーを構成する遺産として認定された。

2007年11月30日、横浜赤レンガ倉庫で認定式が行われ、甘利明経済産業大臣より認定書とプレートが授与された。



認定された産業遺産

釜石製鉄所関連：本事務所、楽山荘、港棧橋、中島橋、山神社扁額
 八幡製鉄所関連：旧日本事務所、くろがね線宮田山トンネル、大谷会館、河内貯水池、高見俱樂部、旧修繕工場、西田岸壁～松ヶ島岸壁、旧鍛冶工場および貯蔵資料



本事務所(釜石製鉄所)



旧日本事務所(八幡製鉄所)



楽山荘(釜石製鉄所)



大谷会館(八幡製鉄所)



山神社扁額(釜石製鉄所)



河内貯水池(八幡製鉄所)

北九州イノベーションギャラリー(KIGS)で企画展を開催

KIGS 事務局長 青井 澤海氏

当館では、2007年9月15日から12月9日にかけて、産業近代化を振り返る企画展「東田ものがたり」を開催しました。

本展では、近代産業黎明期の明治時代から昭和初期に至る殖産興業の歴史や、製鉄所建設・操業に挑戦した人間模様などを、古文書・写真などで紹介。多方面から延べ3,500人のお客様が来場されて、祖先を偲んで感涙される方、製鉄所の歴史の重みに圧倒された方など、鉄の魂を肌で感じ取っていただいた展示会でした。

また、近代製鉄発祥150周年記念行事との連動イベントとして、韓国 POSCO 人材開発院教授の李寧熙氏と東京工業大学教授の永田和宏氏を招いた「製鉄の歴史と技術」についてのシンポジウム、製鉄所を題材としたレトロ映画祭、東田たたらプロジェクトなどを開催し、この間の参加者が約500名を超える賑わいとなりました。

当館では今後も、産学官連携の事業により、広くものづくりの心を次世代に伝えていきたいと思っております。



URL <http://www.kigs.jp/>

● お問い合わせ先

釜石で行われた式典に関して：釜石製鉄所総務部
 近代化産業遺産群に関して：総務部広報センター

TEL 0193-24-2332
 TEL 03-3275-5016